

たけだ よしたか
武田 義孝 (1911~1943)



愛媛県人初のオリンピック選手。越智郡上朝倉村(現、今治市)出身。小学校卒業までを上朝倉村で過ごし、愛媛県立松山商業学校(現、県立松山商業高等学校)に進学し、体操選手として活躍した。その後、日本体育会体操学校(現、日本体育大学)に進学、教員になるための勉学に加え、器械体操のトレーニングに励み、卒業後は、教師として東京府(現、東京都)内の中学校で体育を教えながら、体操に打ち込んだ。昭和7(1932)年、日本は、第10回オリンピック・ロサンゼルス大会から体操選手を派遣することとなり、日本代表として出場することになった。しかし、初めての出場と、慣れない海外での大会のため、結果はすべての種目で散々の成績となった。義孝は、帰国後さらにトレーニングに励み、4年後の第11回オリンピック・ベルリン大会に再び出場、日本選手団体操部の主将として選手たちをまと

めた。その時の成績は国別男子総合で14チーム中9位、義孝自身も個人総合で111人中43位の好成績を収め、後の「体操王国日本」の礎を築いた。

しかし病魔が襲い、昭和18(1943)年8月、腎臓病のため33歳の若さで永眠した。

略歴

- 明治44(1911)年2月25日 越智郡上朝倉村に生まれる。
昭和4(1929)年 日本体育会体操学校に進学
昭和6(1931)年 日本体育会体操学校卒業。教師として東京府内の中学校で体育を教える。
昭和7(1932)年 第10回オリンピック・ロサンゼルス大会に体操選手として出場
昭和11(1936)年 第11回オリンピック・ベルリン大会に体操選手として出場、日本選手団体操部の主将を務める。
昭和13(1938)年 墓参を兼ねて母校の上朝倉尋常高等小学校(現、今治市立朝倉小学校)を訪れ、鉄棒演技を披露
昭和18(1943)年8月22日 腎臓病のため33歳で永眠

(写真提供：渡邊進氏)

〈関連図書〉

- ・愛媛県百科大事典編集委員会『愛媛県百科大事典』 愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・『発掘えひめの人－近代を拓いた101人－』 愛媛新聞社 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P235, 183)

〈ゆかりのある場所〉…(P320, 225)